

# 向島学会 第3回定期総会 開催されました

Association of Mukojima Studies

# 向島学会

## ニュースレター

2004年  
6月17日号



- 向島学会では今年度の活動計画として、
- (1)「向島イヤー」関連企画の実施・協力
  - (2)「交流のサロン」の開催
  - (3)「向島大学(仮称)」及びガイドツアーの開催
  - (4)商店街等における「まちづくりの活動拠点」の創出
  - (5)NPO法人格の取得
  - (6)ホームページの充実
- を挙げました。
- まずは、向島YEAR2004に総力を挙げて取り組みます。詳しい内容は順次、ホームページやチラシなどで。

### (予告) 向島学会第3回交流のサロン

(都市計画キャラバン2004スタートアップ  
シンポジウムを兼ねて)

テーマ:「まちづくりにおけるアートイベント」

日時:7月24日(土) 午後1時半~4時

会場:東武博物館ホール

墨田区東向島4・28・16

## 始まりました 向島Year 2004

[http://web.sfc.keio.ac.jp/~mt/mukojima\\_year/](http://web.sfc.keio.ac.jp/~mt/mukojima_year/)

会期 2004年5月~11月

### 向島学会

Mukojima Year 2004

都市計画キャラバン  
2004向島

AAF2004 アサヒアート  
フェスティバル

さまざま...

さまざま...

向島百花園200周年  
記念企画

墨田区の「向島百花園」が今年二百周年を迎えるにあたり、地域のさまざまな催しを連動させて展開するプロジェクト「向島Year2004」のオープニングセレモニーが十五日、同区墨田一のアトスペース「現代美術製作所」で行われた。

「向島Year2004」は、地域の中に創造と交流の場を提供し、歴史や文化遺産の再発見、新たな地域文化の創造、新規産業の誘発をテーマに掲げている。

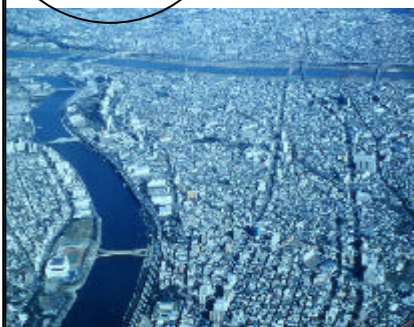
今月から十一月にかけて、子どもたちが資生堂研究所(東向島二)の壁画を制作するワークショップ「こどもが彩るまちづくりプロジェクト」などの企画が予定されている。

まちづくりにかかわる有志で組織する「向島学会」を中核とする実行委員会の主催。セレモニーで、実行委員長の飯田利一・向島法人会会長は「いろいろな文化的な行事を連動させることで、地域を少しずつ活性化させ、その動きがさざ波からうねりへとつながっていく」とあいさつした。

### 地域活性化へ催し連動開催 向島Year

東京新聞5月16日に、15日のサロン後に行われた「向島イヤーのオープニング」が掲載されました。

とびっくす



### 目次

向島学会第3回定期総会 報告  
2004年度第2回交流サロン  
「向島Year2004」オープニング

### 募集

これからのニュースレターは、報告だけでなく、投稿、取材にも力を入れていきたいと思っています。

投稿、そして「まち」記者、編集局員を募集します。

ニュース編集局 大崎元まで

VED03705@nifty.com

# 向島学会第3回定期総会 報告

2004年4月24日(土)におこなわれた向島学会第3回定期総会において議決された議案のうち

- 平成15年度活動報告
- 平成15年度決算報告
- 平成16年度活動計画
- 平成16年度予算計画
- 向島学会会則改正
- 平成16年度役員体制について、報告します。

## 平成15年度の活動報告(概要)

- (1)「交流のサロン」の開催  
会員及び各部会の研究発表の場として「交流のサロン」を6回開催した。毎回30名程度の参加者を得た。各回のテーマと話題提供者等は、下記の通りである。  
第1回「白鬚防災団地再開発を振り返る」  
(平成15年5月31日)  
会場：すみだ生涯学習センター、司会進行：曾我高明  
話題提供：高野公男、吉川仁ほか  
第2回「まちの拠点としての建物の活用」  
(平成15年7月28日)  
会場：中小企業センター、司会進行：藤野雅統、長谷川栄子  
話題提供：大崎元、高木新太郎、真野洋介ほか  
第3回「まちづくりのシミュレーション(模擬体験)」  
(平成15年10月5日)  
会場：一寺言問集会所、司会進行：岡田昭人、藤野雅統  
話題提供：渡辺直他、真野洋介、田上行、渡辺直他  
第4回「京島における路地空間の活用・改善」  
(平成15年12月14日)  
会場：京島キラキラ会館、司会進行：長谷川栄子、藤野雅統  
話題提供：藤井正昭、真野洋介、佐原滋元ほか  
第5回「向島と現代民俗学」  
(平成16年1月23日)  
会場：向島百花園御成座敷、司会進行：高原純子  
話題提供：森栗茂一、佐原滋元、曾我高明、真野洋介他  
第6回「商店街の空き店舗再生」  
(平成16年3月14日)  
会場：現代美術製作所、司会進行：渡辺慎一  
話題提供：真野洋介、曾我高明、高木新太郎他
- (2) 商店街の空き店舗の活用に係る調査研究

「密集市街地整備の啓発活動等の推進に関する調査(ハウジングアンドコミュニティ財団)を受託し、向島の3商店街(鳩の街、京島キラキラ、玉の井)の調査を行い、空き店舗の現状と課題等の調査を行い、空き店舗の活用に係る計画検討を行った。  
「向島ハウス構想(仮称)」(向島の総合的な文化活動拠点構想)の検討については、関連する既存の取り組みや他地区の事例研究等をもとに区内の廃校における検討を進めたが、空き店舗の活用において同構想の具体化を図った。

## (3) 向島イヤーの企画検討

平成16年は、向島百花園の開園200周年、すみだ生涯学習センターの開館10周年などの向島の歴史や文化を語る上での記念すべき年であることから、平成16年を「向島イヤー」として設定し、その趣旨と企画の柱、実行体制等について検討した。  
企画は、向島の「歴史と文化の再発見」、「新たな地域文化の創造」、「新規産業の誘発」を3本柱として、平成16年5月11月にかけて各イベントをゆるやかに結びつけ、向島の魅力を内外に発信していくこととした。なお、実施にあたっては、向島内外の関係団体と連携をとりながら進めることとし、向島法人会、三寺PTA、日本都市計画家協会等との連携を進めた。

## (4) 会員企画等の支援

下記の示す会員の主体的な企画について、向島学会として後援又は協力した。

- 一寺小地域の復興まちづくりワークショップ  
(仮設市街地研究会等)  
平成15年度大阪外語大学向島留学  
アサヒアートフェスティバル  
(ツママレ、ポロ、自転車プロジェクト等)  
空き店舗のリノベーション展・ガイドツアー等(RICH)  
向島のスポーツ企画開発・グリーンマップづくり等  
(現代美術製作所)

## (5) ホームページのリニューアル

向島学会のホームページにおける領域を拡大し、掲載データの充実を図るためドメインを新たに獲得しホームページを改めた。「活動の記録」や「資料室(検索可)」、「会員のページ」等を立ち上げ、向島に係る出版物・研究論文等のリスト等の充実を図った。

## (6) 役員会の開催等

役員会は6回開催し、開催案内と議事録を公開した。なお、会長退任に伴い、活動計画で示した向島在住在勤会員の拡大、ニュースレターの発行等は当初の計画通りに進めることができなかつた。事務局機能に係る体制強化が課題となっている。

平成16年3月31日現在の会員数  
総数57名(一般48名、学生9名)  
うち平成16年度新規会員13名(一般5名、学生8名)  
ただし平成15年度会費納入者  
参考：平成15年度会費未納者17名(うち学生5名)上  
記会員数に含みず

収入の部		
予算	項目	決算
793,987	前年度繰越金	793,987
	入会金	
	正会員 15年度 5名	15,000
	正会員 14年度 1名	3,000
	学生会員 15年度 8名	8,000
70,000	小計	26,000
	年会費	
	正会員 15年度 50名	150,000
	正会員 14年度 6名	18,000
	学生会員 15年度 9名	9,000
200,000	小計	177,000
	交流のサロン参加費	
	第1回サロン	0
	第2回サロン	0
	第3回サロン	3,000
	第4回サロン	9,000
	第5回サロン	95,000
	第6回サロン	10,000
60,000	小計	117,000
60,000	向島学会誌売上計	44,660
	受託業務	
	墨田区向島地区における商店街空き店舗の調査	1,250,000
	まちづくり団体活動情報整理	100,000
	小計	1,350,000
	寄付	10,000
	雑収入	2,000
	利息	11
1,183,987	収入合計	2,520,658

支出の部		
予算	項目	決算
60,000	ホームページ管理費	38,482
60,000	交流サロンの運営費	129,238
160,000	向島学会企画補助費	16,137
50,000	資料複写費	13,580
60,000	郵便・通信費	0
60,000	会計等の事務費	0
60,000	雑費	17,363
400,000	ドキュメント作成費	15,000
20,000	ニュースレター作成費	0
50,000	外国人向け等広報費	0
203,987	予備費	0
	受託業務作業費	
	墨田区向島地区における商店街空き店舗の調査	1,250,000
	まちづくり団体活動情報整理	50,000
0	小計	1,300,000
	次年度繰越金	990,858
1,183,987	支出合計	2,520,658

## 平成15年度の決算報告

2003年度決算報告書  
自：2003年4月1日 至：2004年3月31日  
なお、下記収支決算は監査済みである。

## 平成16年度の活動計画

(1)「向島イヤー」関連企画の実施・協力  
「向島イヤー」平成16年5月11日(実施の中核となり、歴史と文化の再発見)、新たな地域文化の創造、新規産業の誘発に係る企画について、関連団体と連携して実施・協力する。  
具体的には、「向島イヤー」全体及びその中心企画の「向島百花園開園200周年イベント」の事務局業務を担い、企画・広報・記帳等を行う。開催に当たっては、日本都市計画家協会の「都市計画キャラバン」などの連携を図る。また、その成果を踏まえつつ、平成17年度「アートNPOフォーラム」の向島開催などについて検討する。

(2) 「交流のサロン」の開催  
 会員の研究発表、活動報告、研鑽及び交流の場として、交流のサロン」を6回程度開催する。  
 開催に当たっては、「向島イヤー」のプログラムとの連携を図ることとする。

(3) 「向島大学(仮称)及びガイドツアー」の開催  
 向島学会の会員などを講師とする講座(有料)と向島のガイドツアー(有料)を開催する。  
 開催に当たっては、「向島イヤー」のプログラムとして実施することとする。

(4) 商店街等における「まちづくり」の活動拠点の創出  
 商店街の空き店舗調査の結果を活かし、商店街の空き店舗等を活用した「まちづくり」の活動拠点の確保とその管理運営について検討し、拠点創出をめざす。  
 検討に当たっては、その活動を「向島イヤー」のプログラムとして位置づけ墨田区や商店街等の関係団体との連携を図りながら進める。

(5) NPO法人格の取得  
 事務局機能を強化し、会計や記録等の管理業務体制を整えるとともに、助成財団等からの資金調達を計画的に実施する体制を整える。  
 設立当初より懸案となっていたNPO法人格の取得について検討を進める。

(6) ホームページの充実  
 向島学会のホームページの「資料室」や「活動報告」等を充実させる。

\*\*\*\*\*  
 平成16年度予算計画  
 \*\*\*\*\*

収入の部(項目)	(金額)
1 前年度繰越金	990,858円
2 入会金	47,000円
3 年会費	230,000円
4 交流のサロン参加費	60,000円
5 まちづくり講座等事業収入	240,000円
6 寄付金	650,000円
合計	2,217,858円
支出の部(項目)	(金額)
1 ホームページ管理費	100,000円
2 事務経費	50,000円
3 資料複写費	50,000円
4 NPO法人申請手続き費	50,000円
5 雑費	50,000円
小計 管理費	300,000円
6 交流のサロン運営費	120,000円
7 向島大学事業費	200,000円
8 向島イヤー参加費	500,000円
9 同関連企画事業費	200,000円
10 活動記録作成費	250,000円
小計 事業費	1,270,000円
11 予備費	647,858円
総計	2,217,858円

\*\*\*\*\*  
 向島学会 会則(改正)  
 \*\*\*\*\*

1 (名称)  
 本会は向島学会(Association of Mukojima Studies)と称する。  
 2 (事務所)  
 本会は、主たる事務所を、東京都墨田区に置く。  
 3 (目的)  
 本会は、墨田区向島地域に関する学術・芸術等の成果を集約し、それらを地域に還元するとともに、今後の向島地域のあり方を検討し、広く情報発信・行動提案していくことを目的とする。  
 4 (活動)  
 本会は、前項の目的を達成するために、次の活動を行う。  
 ・向島地域に関する資料の収集・整理  
 ・向島地域に関する情報の交換・提供  
 ・向島地域の課題に関する調査研究・提言  
 ・会員の資質向上及び向島地域の人材育成  
 ・その他、本会の目的を達成するために必要な活動  
 5 (入会)  
 会員になることとするものは、会員2名の推薦及び会費の納入を必要とする。  
 6 (会員)  
 会員は本会の目的に賛同し、活動に主体的に参加することにも、活動の成果を会に提供する個人を対象とする。  
 7 (賛助会員)  
 本会の目的に賛同し、活動に協力する個人、各種法人、団体を本会の賛助会員とする。  
 8 (会費)  
 会員は付則において定める金額の会費を納入しなければならない。

9 (退会・除名)  
 会員は、退会したとき又は除名されたときに資格を喪失する。なお、会員が本会の名誉を傷つけ、又は本会の目的に違反する行為があったとき、年会費を1年以上滞納したときは、総会の議決を経て、会長が除名することができる。ただし、その会員に弁明する機会を与えなければならない。  
 10 (役員)  
 本会は、次の役員を置く。  
 会長 (本会を代表する：1名)  
 副会長 (会長を補佐する：2名)  
 理事 (会務を統括・執行する：若干名)  
 幹事 (会務に關し助言する：若干名)  
 監査 (会計及び会務執行を監査する：2名)  
 役員は会員のうちから総会において選任し、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。  
 11 (会議)  
 年一回、全会員によって総会を開催する。  
 本会は、分野別に部会を設ける。また、1ヶ月に一回程度の割合で「交流のサロン」を開き、意見交換を行う。  
 12 (活動経費)  
 本会の活動経費は、会費、協賛金、助成金などによって賄う。

13 (会計年度)  
 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  
 14 (事務局)  
 会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には、事務局長及び事務局員を若干名置く。事務局員の任免は、理事会の同意を得て会長が行う。  
 15 (会則の改正)本会則は、会員の過半数の同意がなければ改正することができない。  
 16 (補則)  
 本会則の施行に必要な規則は、別に定める。  
 〆付則〆  
 (1) この会則は、2002年4月20日から施行する。  
 2003年5月31日一部改正  
 2004年4月24日一部改正

(2) 会費は、以下の通りとする。  
 入会金：3,000円(ただし、学生会員は1,000円)  
 年会費：3,000円(ただし、学生会員は1,000円)  
 賛助会員は、個人：1口3,000円 1口以上  
 法人：1口10,000円 1口以上  
 なお、団体の賛助会員は、適宜情報を提供することにより本会の活動に協力を得るものとする。  
 年会費の納入は年1回とし、毎年度の5月末日までに前納しなければならない。ただし、新規会員は、入会時に入会金とその年度の年会費を納入するものとする。  
 \*\*\*\*\*

平成16年度役員体制

会長：高木 新太郎(新任)  
 副会長：佐原 滋元(IT担当)  
 渡辺 慎二(新任)  
 理事：高原 純子(会計担当)  
 阿部 洋一

幹事：白井 征子 (事務所担当)  
 北條 元康(ニユース担当)  
 古橋 良文(IT担当、新任)  
 嘉藤 笑子  
 曾我 高明(向島イヤー事務局長)  
 中山 誠(会計担当、新任)  
 山本 俊哉(総務担当)  
 真野 洋介(事務局長)  
 長谷川 栄子(事務局次長、新任)  
 大崎 元(編集長ニユース担当、新任)  
 小川 幸男

監査：藤野 雅統(新任)  
 森野 雅夫(新任)  
 大場 森夫(新任)  
 渡辺 直(新任)  
 向島在住者 向島在勤者 地区外在住者



交流のサロン終了後、同じ会場で向島Year 2004のオープニングセレモニーが開催されました。

## 向島Year 2004「オープニング

全体の企画概要と組織体制の説明のほか、実行委員の紹介、それぞれのプロジェクトの報告と参加アーティストによるプレゼンテーションなどが行なわれました。交流のサロンからの参加者にセレモニーへの参加者が加わり、とてもにぎやかでした。あちらこちらで話が弾んで、壇上マイクの声も聞き取れなかったのはちょっと申し訳なかったと思います。これからの「向島Year 2004」に期待を持たせる集いとなりました。

向島法人会会長の飯田利一氏が実行委員長に就き、向島学会のメンバーとともに、地域とのより多面的で深みのある関係が生まれるものと期待されます。前向島学会会長の山田勝巳氏もお元氣な姿で、駆けつけてくださいました。

日時：5月15日(土) 3時15分～5時  
会場：現代美術製作所

向島学会・平成16年度

## 報告 = 第2回交流のサロン

平成16年度の交流のサロン第2回目です。

参加者は50名、そのうち会員以外の参加者は23名でした。

日時：平成16年5月15日(土) 午後1時～3時

会場：現代美術製作所(墨田区墨田1-15-3 電話03-5630-3216)

参加費：向島学会会員は無料、会員外は1,000円/学生は500円

### プログラム

- (1) 向島の自然 橋内智也(慶應大学大学院)
- (2) 初等教育から見た向島 高木新太郎(向島学会会長)
- (3) 街にフィットした住まい  
- 柿岡邸の「まちなみ住宅100選」受賞にあたって -  
藤田倅宏(株藤田住環境計画所長)
- (4) その他  
主催：向島学会(<http://www.mukojima.org/>)

今回の報告はどれも、今は見えにくくなっているけれど、地域・向島に何層にも重なってきたまちの潜在的な力を掘り起こそうというものです。

橋内氏の「向島の自然」は、水と緑から見た向島についての調査の中間報告です。東向島地区を対象に、地域の水の歴史の変遷、江戸から続く緑の実態をみています。旧寺島村の地図にみる隅田川に向かう6本の水路は、明治期では水路に道が沿っていたけれど、大正期には水路が道に変わります。点在したため池は、大正大震災後の人口増加でその数が増えたりしつつも、農業から工業へと地域基盤が変わるにつれて減っていきます。震災や戦災など地域の物理的状況の変化、そして社会的条件の変化によって、向島の「水」はさまざまに変化し、変遷していったとのことでした。百花園や梅屋敷などの民間の緑の存在が、路地の緑や新しい緑としてのコミュニティガーデンやグリーンマップにつながるのではないかとという視点も示されました。

高木氏の「初等教育から見た向島」では、都内二三区で唯一高等教育機関のない墨田区において、産官学協働や向島学会の意味を考えるための前提を整理し、あわせて、地域に最も身近な教育機関である小中学校が地域とどのよう

につながっているのかを、統廃合と選択制の抱える問題にも触れつつ、校歌の分析から明らかにしています。選択制による競争原理の導入が地域の学校の解体へとつながりかねないという現状は、地域における教育、教育にとつての地域という、当たり前だと思われてきたものを失わせてしまいかもしれないという重要な指摘に思われました。校歌からみると、隅田川はもっとも重要なシンボルであるようです。自然物についているものを除いて町名地名が少なくないなど、特徴的な様子がとてもよく示されています。

柿岡邸の「まちなみ住宅100選」受賞は、佐原氏の紹介の後、「100選」主催の住宅生産団体連合会から藤田氏に報告していただきました。柿岡邸は百花園そばの3軒連続するミニ開発住宅を自力建設で内外リニューアルしたもので、密集市街地の中での事例として、また、主張を抑えて、向島らしい表情、やわらかい表情を持ったデザインとして評価を受けたということでした。

その他、向島Year 2004関連プロジェクト、アサヒアトフエステイバル関連プロジェクトの紹介がありました。向島Year 2004に関しては、関連プロジェクトの内容スケジュールなどを順次、ホームページでお知らせします。(文責：大崎)

### 仲間になりませんか！

向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。具体的には、会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めしています。また、向島学会の活動にご協力いただける人や団体を賛助会員として募集しています。

入会金 3,000円(学生会員 1,000円)

年会費 3,000円(学生会員 1,000円)

申し込みは「交流サロン」やHP等で受け付けます。下記に入会金や年会費を納入してください。

郵便振り込み

記号番号 0110-7-84756 名義 向島学会

Association of Mukojima Studies

# 向島学会